



Tokyo Riverside Rotary Club



例会 毎週金曜日12時30分(第5金曜日のみ18時00分)

上野 精養軒 Tel (03) 3821-2181

事務局 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 5-48-5 光陽社ビル

Tel (03) 5810-6221

E-mail riverside-rc@riverside-rc.jp

URL <https://riverside-rc.jp/>

会長 小根澤 美和

幹事 渡辺 健次

「ロータリーのマジック」

「温故知新」

国際ロータリー会長 ステファニー A. アーチック会長

東京リバーサイドロータリークラブ

例会No.1145 2024年11月 1日
上野 精養軒 2F「梅の間」

♪国歌斉唱「君が代」
ロータリーソング「四つのテスト」

○卓話 元全日本選手 藤井 寛子 様

【プロフィール】

奈良県生駒市出身の元卓球選手。四天王寺中学校・高等学校から淑徳大学を経て日本生命へ入社。チームメートの若宮三紗子と組む全日本卓球選手権女子ダブルスで、2009年度から2012年度まで4連覇した。

○誕生祝：小林 裕直 会員

○結婚記念祝：遠藤 正幸 会員
長谷川 正範 会員
鈴木 久 会員
中野 能克 会員

メニュー カレーライス

【次の例会 11月 8日】
上野 精養軒 2F「藤の間」

♪ロータリーソング「それでこそロータリー」

○合同例会リハーサル

○誕生祝：熊井 昌一郎 会員ご夫人(三枝さん)

メニュー オムライス

【前回の例会 10月25日】

○会長報告はございません。

【11月：ロータリー財団月間】

○幹事報告

- ・次回11月1日(金)の例会後、桔梗の間において、役員・理事会を行います。役員・理事の方は、宜しくお願い致します。
- ・11月20日(日)に荒川 RC 主催の第3回世界ポリオデーに6名で参加してまいりました。ご参加頂きました皆様有難うございました。

○委員会報告はございません。

○出席報告		名誉会員 1名
会員数	出席数	欠席数
37	33	4
☆ ビジター数 5名 累計 3,791名		
RI2580 地区ガバナー 石川 彌八郎 様		
RI2580 地区北分区 C グループガバナー補佐 藤井 俊一 様		
RI2580 地区幹事 木村 敦史 様		
RI2580 地区北分区 C グループ幹事 郷田 浩一 様		
小林 伸一 様		東京上野 RC

ニコニコBOX SAA報告

小根澤 美和 会長/渡辺 健次 幹事
本日は、石川ガバナー、藤井ガバナー補佐、木村地区幹事、郷田分区幹事お忙しい中ご来会有難うございます。

高橋 秀治 会員
ガバナー訪問に当たり、会長、幹事、理事の方々設営お疲れ様です。盛会となるよう全員で頑張ろう。

新谷 仁海 会員
本日結婚記念のお祝い有難うございました。お陰様にて34回目を迎えることが出来ました。これからも仲良く、円満に過ごして参ります。

小林 弘 会員

年間出席表彰 20 回目頂き有り難うございます。

炉辺会合 3 班 (中野)

ニコニコの必要性について先輩方にお話し
頂きました。会費の一部をニコニコ致します。

ニコニコBOX	45,000円
2024~2025 年度	累計600,000円

ガバナー公式訪問 クラブ協議会



小根澤会長 ご挨拶



右：小根澤会長、石川ガバナー、藤井 G 補佐、木村地区幹事、郷田分区幹事



小根澤会長発表



社会奉仕・熊井医長 会員増強：中原委員



左：ビジョン委員会：西山会員
中央：IT 委員会：木村委員長



例 会



結婚記念祝
新谷 仁海 会員



年間出席表彰 10/19
小林 弘 会員 (20 回)



年間出席表彰 10/14
渡辺 健次幹事 (6 回)





RI 第 2580 地区ガバナー 石川 彌八郎 様
国際ロータリー2580 地区のガバナー石川彌八郎でございます。多摩分区の福生 RC でございます。職業は福生の街で日本酒「多摩自慢」というお酒を作っております。年は 60 歳です。生まれたときは石川太郎という名前で彌八郎は親から頂いた名前です。うちは代々襲名で彌八郎を名乗っております。

250 年間代々日記をつけていて 20 年間かけて本にし、現在 9 巻にまとめられています。お爺さんは福生クラブの初代会長でその時のテーマが「隔たりを除いてご縁を大切に」でした。

我々人間は、肉体と精神を分けることができます。肉体はすでに、別々の人間であるから隔たっています。

精神は例会を通じて徐々に近づいて行って取り除くことが可能なのです。ロータリーでは「出席無くして親睦無し。親睦無くして奉仕無し」と言っていますが、親睦の大切さはそこだなと思います。親睦って何かというと精神的隔たりを取り除くということなのです。精神的隔たりを取り除かぬして奉仕なしと言い換える事ができるわけです。なんで精神的隔たりを取り除かないと奉仕が出来ないのかというと、入会して新しい方、古い方もいらっしゃいますが、そもそも入会する前は知らない同士です、誰一人ね。入会して初めて名刺交換などしてだんだん近づいていくのですが、例会に出て何を学ぶか奉仕について語る

のですが、入りて学び、入りて奉仕といいますが、何を学ぶか「アイサーブ」を学ぶことなんです。つまり我々は人間として自分の経験・知見等を世の中にどのように提供することができるのかという、センス・アンテナの感度を研ぎ澄ましそれを例会で語るわけです。入りて学び、出でて奉仕。世間に出ればいろいろ困っていることがあって、僕も何かできる事はないかなということ、手伝いなどすることもあるのですが、一人じゃできないこともあるのです。そんな時は仲間を集めなきゃいけないのですが、そういう時に例会に来てこれこれこういうことをしようと思うんだけど一人じゃできないので皆手伝ってくれないかと声掛けするのがこの例会の場なんです。

その時に「いいよ、分かったよ。一緒にやろうよ」となるかならないかは精神的隔たりがあったら「関係ないよ。」となり例えやったりしても心からやらなければ力はいらない。

これが精神的隔たりが無い、統一感が持てた上で一つのクラブとしての事業をやりましょうよと言ったら、それはものすごいベクトルがあるパワーも出ます。今 30 人ですか、これが 1+30 のパワーが 35 とか 40 とかバーンと力を表してもものすごい奉仕に繋がるということもある。それを望んでいるというのが RI 会長のテーマ「マジック」であり全員が同じ方向に向かってこれをしなくてはならないと言う気持ちがぐっと上がった時にもものすごい力がでるこれはロータリーの我々のあるべき姿というわけです。

それはみんなでやるべきことですが、それは最初に述べたアイサーブの精神です。私はいったい何ができるのか、7 月か 8 月のガバナー月信にでていますが、職業奉仕というのは我々重要にしていますが、職業奉仕とは職業を全うすることにおいて十分社会の貢献していることなのです。「じゃあ引退したらどうなるの？職業から外れましたよ。そうしたら職業奉仕はできないの？」という問いに「そんなことはありません」と答えました。

それはさっき言いました。職業をしている間あるいは覚醒している時から色々な事を学んだり経験したり知見をもっています。それを社会が求めているところに提供する事によって、十分世の中の役立っているわけですから、それを含めて職業奉仕というのではないかなと僕は思っています。ではなぜ職業奉仕というかということ、我々は生まれて学校へいき、就職し引退して死んでいくわけですが、一番長く使っているのは職業の時間なのです。一生のうちでも一週間のうちでもそうですし一日のうちでも一番使っているのが職業に使っている時間なんです。それを考えましょうというので職業奉仕という名前になっているのですが、生まれてから死ぬまでどのように我々は生きて行かなきゃならないのかという価値観を研ぎ澄ますということだと思っています。

具的に言いますと私は学生の頃水泳をやっていたまして、小学校の先生と知り合いまして水泳を教えていたのでお手伝いをする事になりました。4年教えていまして自分の経験を世の中に提供したということで職業奉仕、講義の職業奉仕というのではないかと思います。

夏休みの終わりにお年寄りから子供まで集めて水泳大会を行いました。近所のおじさんチーム、子供チーム、学校の先生と僕たちチーム1人足りなくて木村さんにも出て頂きました。とても盛り上がりました。教育ってこんなもんだなと思いました。つまり家庭と学校と地域で一緒に子供を育てることが重要となっていることを教わりました。

それを担っているのが実は我々ロータリーということで青少年育成の概念ゆえの根本だと思っていますわけです。私も水泳大会にバタフライででたのですが2位で入賞いたしました。時間は1分2秒で一分切りたかったので今年も出ました。また一分が切れなくて1分1秒でした。先日のパリのオリンピック、バタフライの池井里佳子さんの記録は57秒、僕は1分1秒ね。40年たったいまでも1秒1秒でおよげるかということ、オリンピックは100メ

ートル、福生の大会は50メートルだったんです。二人しかでていませんでしたが2位でした。表彰式の台で子供から大人まで表彰を受け取るのですが、教育長が来て表彰を渡すのですが、町の大会で演出も何もないので、ただ呼んで渡すだけなんで、表彰式らしくないから「教育長、私ハーモニカ持っているんで少し音楽ぐらい流しますよ」とハーモニカを表彰式の音楽を吹きました。そしたらみんな笑顔で「わーっ」と盛り上がりました。これも職業奉仕と私は思っています。よそのクラブでロータリーソングの音楽が出てこないで、ハーモニカを持っていた私は「奉仕の理想」を吹きましたよ。このタイミングですと出せることが大切で、それが奉仕の「アイサーブ」の考え方です。私も昔から真面目に例会に出ていたわけではなくて入って1-2年は気が向いた時しか例会に出ていなかったのです。でも今悔しくて、悔しくて仕方がない。私は入会以来皆出席ではございません。過去は変えられない。今から死ぬまで100歳まで例会に出たとしても、入会依頼皆出席というのは得られないのです。ですからもし入会の方がいらっしゃったら、もう1週間目2週間目休んだらもうダメですからね。

2週間、3週間、4週間とやっていくうちに半年、1年2年3年となります、そうするとどうなるかって言うと、休めなくなるんです。

僕はつくづくそう思います。今日は爺さんの日記を持ってきました。父も書いてる、爺さんも書いてる、曾爺さんも書いてる、その前も、その前も250年書いてるので、私の代で止めるわけにはいかない。

それと同じで2年、3年、4年5年10年と出席をすると、休むわけにはいかなくなりません。そうするとどこかにメイキャップということになる。そこの積み重ねという気持ちよいプレッシャーを与えるのも重要だと思っています。

そういうわけで私はまじめなロータリアンではなかったのですが2-3年すると「石川君もそろそろロータリーの事で語ってもらいた

いのだが例会で15分時間を上げるからなにか話なさいということになりました。

うちのクラブは入会するとロータリー入門と言うのを頂くのですが、もらって2-3年ほこりをかぶっていました、何か語らなくてはならなくなって、話すにあたって読み始めたんです。これには、ポールハリスの時代からロータリーの崇高な理念がかかれています。そこで初めてロータリークラブというのは、こんなに崇高な理念をもった団体だったのだから3年目ぐらいにやっと気が付いたのです。

気が付かなかつたらそのまま退会だったかもしれせん。ですからその3年ぐらいの間にロータリーの崇高な理念を少しずつすり込んでいってあげることが、退会防止に絶対つながるのです。そこは強く僕は申し上げたいと思います。続いてもう一つのテーマ、ご縁を大切にで「ご縁」とは、神山がバナーは出会いを大切にだったのですが、私は「ご縁を大切に」で、「出会いとご縁」とどう違うの？と考えまして、出会い無くしてご縁なしなんです。出会ってどうなったかなんです。

出会っても知らない者同士、隔たりがある同士が何かのきっかけで、出会ったことによって、重なり合って世の中の役に立ってそれで初めてご縁というのだということを、先日ある和尚さんから聞きました。この扇子というのは、紙と竹と金目でできています。

材料は3点です。材料があるだけじゃ役に立ちません。それが結びついてやっと役に立つのです。我々も材料が揃ってここにいるわけです。これがきちんとした形で結びついて機能しないと、出会っただけで縁じゃないよという話なんです。やっとこれで意味が出てくるのです。バラバラだと意味がない、意味のない扇子は何という？(ナンセンス)

私も先日結婚式に行きまして来ました。その二人は出会って縁があって結婚したわけで、出会うだけだったらもっといっぱい出会って結婚していますよね。そんな中で縁があって結婚するわけです。出会った人全員と結婚していたら大変な事になってしまいますからね。

出会うって言うことは何かというと、世の中に役に立つ、「世の中」って何って、最初は私とあなたなんですよ。結婚ってつまり私はあなたの為に、あなたは私の為に、そういうことから最初の社会の為になることから始まるわけです。子供ができれば少子化の解消にもなりますし、ご縁というのはつまりで会ってどうなったかです。和尚さんが意識しなくとも、世の中の為になっていく流れも縁のうちだそうです。寺に昔からの沢があり、和尚さんはその沢にちょっと手入れをしました、そしたら虫や沢ガニが来るようになり、鳥がそれをたべにくるようになり、それが綺麗と評判で写真を取りに来る人が増えてきて、駐車場を整えたら益々来るようになり、お店まで出来て、たまに泊まる人まで出て来て、街が潤い始めたのです。沢は昔からあったのですよ。それにちょっと手を加えただけでこういう風になりました。

我々もそういうのを見付けましょう。昔からあるものだけどロータリーとして、ちょっと手を加えることによってあとは勝手に虫や鳥がやってくれば、街は潤うわけです。

私もガバナーとして48回廻っていますが、皆さん口をそろえて言うことは会員拡大なのです。なんで会員拡大をしなくてはならないのかといいますと私のおじいちゃんの話になります。

私のお爺さんは福生の初代会長でした。それでこの日記は昭和22年1月の日記です。

「寒気強し敗戦3年後の新春、混沌とした敗戦後の祖国日本の政治と経済に非常な深刻を極めているシャツ1枚が300円子供のセーターが500円、不徳とも言うべき値段これが3年目の日本の姿なのだ。もちろん肯定はあるしかし右の値段が堂々世上の現実の姿となっている哀れな祖国の姿なのだ。新年そうそう祝うべく祖国の春を迎えてあまりにも汚れた醜い状況を消さなくてはならないことは悲しい事である。」この中からどうしてそのような力を出して祖国を再建したら良いかなどなど悩みがあると敗戦後、混沌とした日本で秩序

や倫理もなく、お金にみんなが目くらんで人を騙してでも金を稼げる、騙され騙したら騙される方が悪いんだと言ってお金を集めていた時代なのです。それって100年前のポールさんがいたシカゴを思い出しますよね。同じだったのです。当家は今酒蔵をやっていますが、昔は農業一本でした。150年前までは、農業と酒蔵をやっていたのですがこのタイミングで敗戦になりまして、農地解放になり、農地を大半失ったわけです。農地を失った石川家は酒を売ることで商人とすることになりました。そこで商人とはどういうことか。「商人というのは近頃の様な悪儲けをするものだ」という印象を社会に与えるものであってはならない、誠実に芯を貫く宗教家の持つ心と同じものを持っていなければならない。税金を出して貧乏になっても、いつまでも商人として信用を確保、社会人としての信用も確保。まさに紳士的な行動でなければならない。社会が悪いから俺も悪くなければ生きられないと、世間の人はみんな言う小生もそれを幾度思ったことであろうか、しかし自分だけは清いこうと思って戦争中ずっと7年間守ってきた闇もやらなかった。正しき生活の上に強い基礎が立つのだと言ってきた。教室も率先してやった公職も、しかしこれからはみんな無駄になった。一方政府の命に背いたものは金を儲けた。水疱にもならなかった深淵の春に、ほくそ笑んでいる。自分も闇をやろう、新規事業でボロい儲けでもやろうと思った、しかしやらないうちに自己の両親は清らかに行けと教えてくれる。インチキの商売でボロい儲けをするよりも親切な良心的な商売によって、長い信用を気付くと教える。人が良心的にならざる時代に良心的になることが長い信用確保の唯一の道だということを教える」と書いてあります。ここに書いてることはまさに職業奉仕の概念です。しかしこれを書いたのが昭和22年ですよ。福生のクラブができたのはこの20年後です。うちの爺さんは、職業奉仕の概念をロータリーで学んだのではなく、そもそも商人たるべきはこうあるものということの心で底か

ら思っていて、それに合致するのがロータリーだったということで、これを今福生の街で広めればうちの街は豊かになる。それを国家に広めれば国家も豊かになるという概念のもと初代会長として立ち上がったことがわかりました。この概念を我々は心の中に持つことによってロータリーを広めなくてはならないということが心の底から理解できると思います。会員を募集する、広めるということはRIのためではなく、我々の住み良い社会を作るための一助ということなのです。シカゴの時代に、そういった荒れ果てた倫理観のない街でも、脈々と続いているお店があります、そういうお店を見てみると、お客様の立場になってしっかりと社会に貢献しようという理念の元商売を続けています。そういうお店は潰れることなく続いていて、たしかに大儲けはしていないけれども長続きしているということが書いてありました。私、石川家の人間も全く同じ心配をしています。爺さんも父さんも十何代も続いているので私の代で潰しちゃいけないという大きなプレッシャーを持っていました。この先息子や孫が継ぐ時代になって、潰れてもらいたいと思っている親はいません、息子が継いでどうなるかわかりません、波風やリーマンショックのようなこともあるかもしれません。そんな時に、目の前のお金に眼が眩むことも魔がさしたりすることもあります。ふっと誰もやっていないから、誰も見ていないからやっちゃってもいいだろうなんてことになる。それがあとでしっぺ返しがかかることになります。そのようなことにならないようにするのが職業奉仕の教えであり、うちのじいさんの書いた日記なんです。私の息子も大きくなったらロータリーに入会させようと思っております。それによってその心を得ることによって石川家の安定が保てるのではないかと思っ

